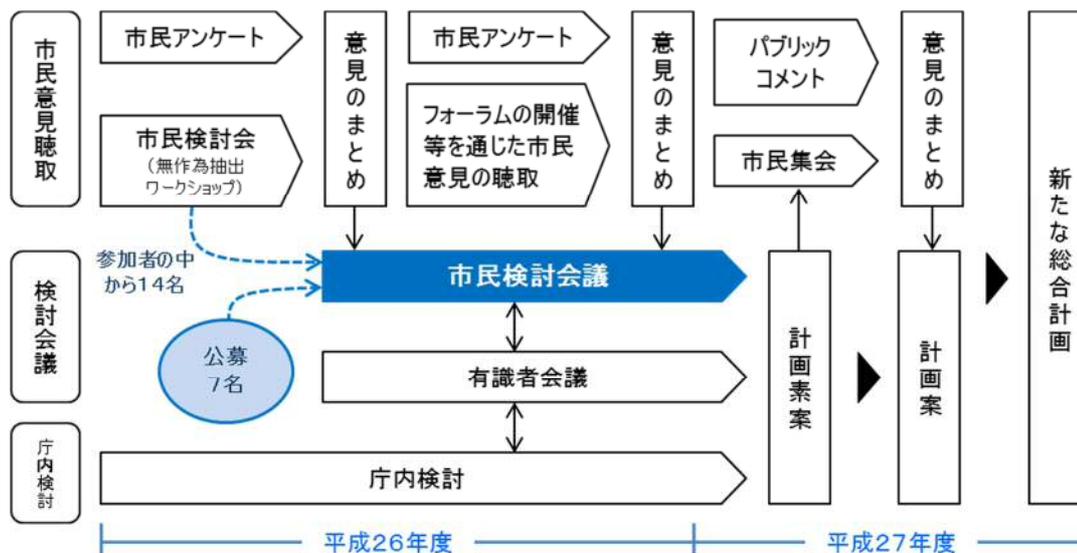


# 川崎市総合計画市民検討会議 第2部会 開催結果

日時:平成 26 年 12 月 21 日(日)9:00~12:30  
会場:高津区役所 5 階 第 2・3 会議室

## 1. 「川崎市総合計画市民検討会議」について

- これからの川崎の目指すべき方向性や取組を明らかにする「新たな総合計画」の策定にあたり、市民の視点での意見や助言をいただく場として、「川崎市総合計画市民検討会議」をスタートしました。
- 「市民検討会議」では、部会による議論を行うほか、全体会で意識の共有化や意見の集約を図るとともに、別途設置する「川崎市総合計画有識者会議」と検討内容を共有化し、市民の視点からの意見として活かしていきます。



## 2. スケジュール

平成 26 年 10 月 4 日 (開催済)	第 1 回全体会
11 月 1 日 (開催済)	第 1 部会 (社会福祉 (介護、健康))
12 月 21 日	第 2 部会 (子育て、教育)
平成 27 年 1 月 25 日	第 2 回全体会 (第 1、第 2 部会の共有と防災・コミュニティ)
2 月 8 日	第 3 部会 (暮らし、交通)
3 月 1 日	第 3 回全体会 (第 3 部会の共有など)

## 3. 会議の構成

- 会議は下記のとおり、市民 21 名とコーディネーター (学識経験者) 1 名の計 22 名で構成されています。

公募市民	7 名
無作為抽出した市民による「川崎の未来を考える市民検討会」参加者	14 名
コーディネーター (中央大学法学部教授・川崎市在住 磯崎初仁氏)	1 名

※20代~70代の市民。各区概ね均等な人数で、男性11名・女性10名 (コーディネーターを除く)

- 第2部会（子育て、教育）については、下記のとおり市民委員11名が2グループに分かれてディスカッションを行いました。

1グループ (7名)	小山了委員、山下博子委員、荻原進委員、馬場直子委員、 加藤英雄委員、長谷川秀子委員、長野敏幸委員
2グループ (7名)	松本玲子委員、新富征人委員、外山瑠美委員、加藤浩照委員、 小池朋子委員、岡田義一委員、山下千裕委員

#### 4. 第2部会の開催結果

##### (1) コーディネーターあいさつ

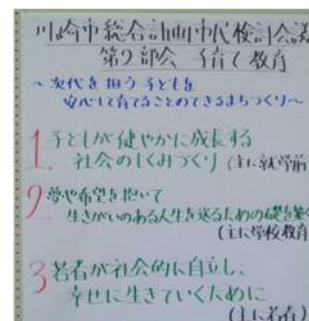
- 会議の総合調整を担っていただく中央大学の磯崎教授からは以下のようなお話をいただきました。
  - 今回は『子育て・教育』をテーマに、子どもをめぐる環境をどう整えていくか、子どもにとって良いまちづくりをどう進めていくか、を大きなポイントとしてディスカッションを進行する。



コーディネーターの  
磯崎初仁中央大学教授

##### (2) グループディスカッション

- 2つのグループに分かれて、「子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり」（主に就学前）、「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」（主に学校教育）、「若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために」（主に若者）の3つをテーマに、グループディスカッションを行いました。



①市の職員から市の状況について説明



②みんなで意見を出し合います



③意見を模造紙にまとめていきます

- 主な意見としては、以下のようなものがありました。
  - **テーマ1「子どもが健やかに成長する社会のしくみづくり」(主に就学前)**

##### グループ1

- ◇ 待機児童をゼロにすることは必要であるが、保育所に入るための要件が厳しかったり、病児保育が不十分だったりする課題がある。さらに一歩進んで、待機児童に対する不安をゼロにする、“実感ゼロ”を目指すべき。
- ◇ 子育てをしている親や子どもに寄り添って、その多様な状況に応じて「伴走」するように地域・行政が支えるしくみづくりが重要。



- ◇ 子育てをサポートしたいと思うベテラン世代もおり、子育てを気軽に相談できるネットワークづくりが重要。
- ◇ 公園でボール遊びができなかったりするなど、遊び場の制約がある。さまざまな年代の子どもが安心・安全に楽しく遊べる場づくりが重要。

### グループ2

- ◇ 核家族化が進む中で地域の高齢者も含めた交流の場づくり、集まれる環境づくりが大切。
- ◇ 周辺の自治体とサービスの違いがあり、川崎市として必要な福祉サービスを見極め、その戦略についての市民とのコミュニケーションが必要。
- ◇ 公立よりも私立の保育園が増えている中で、保育の質を確保し、安心して預けられる保育環境を整備することが重要。
- ◇ 税金や利用者負担以外のもの、たとえば保育園や公園のネーミングライツなどによって財源を捻出するなど、子育てサービスを支える財源を多元化することが重要。



## ➤ テーマ2「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」(主に学校教育)

### グループ1

- ◇ 川崎市にはハイテク企業や文化芸術などの魅力的な資源がたくさんあるため、これらを最大限に生かして、子どもたちが将来こうなりたい、こういう仕事に就きたいというビジョンや夢を育む体験の場を提供することが重要。
- ◇ 子どもの主体性や創造性を養うことが大切であり、そのための遊びや余暇の時間を地域で提供できるように行政がサポートしていくことが必要。
- ◇ 学力については、多様な子どもの状況に応じて、「100%わかる」を目標にしたい。学力・人間力の向上に向けて、地域・学校が一体となって取り組む必要がある。



### グループ2

- ◇ 学校だけでなく、地域でコミュニティスクールの的な拠点をつくり、高齢者や企業人、ボランティア等の地域のいろいろな人材が学校教育に関わる機会をつくることが重要。
- ◇ 子どもが生きがいを持って生きていくためには、自尊心としつけを身につける学びを中心においたカリキュラム・学校運営が重要。
- ◇ 先生が忙しく、授業準備以外にも書類整理やモンスターペアレントなどへの対応に追われることも多く、自信をなくしがちなため、まずは先生に自信を持ってもらうことが大切。

➤ **テーマ3「若者が社会的に自立し、幸せに生きていくために」(主に若者)**

**グループ1**

- ◇ 根幹は、幼少期から小学生の時期をどう過ごすかにある。心のよりどころとなる「ふるさと」が必要であり、家庭が大事であることはもちろん、多世代・多機能が交流し気軽に集まり相談できる場を、地域と行政がいかに形成できるか。
- ◇ 多様な職業があり、それに従事する人の話を聞くことで働くよろこびや価値観が形成される。子どものころから、親以外のいろいろな人から教えてもらえる場をつくることが重要。
- ◇ それらを支えるコミュニティづくりが重要であり、子育てを軸として、シニアなどいろいろな市民が集まって、ふるさとや多様性を学べたり、学力不足を補えたりする場になるとよい。学童保育の場をプラザ化してはどうか。
- ◇ ポイントは、行政と地域と家庭が負担を分担することで、一か所に集中しない仕組みづくりである。

**グループ2**

- ◇ 「辛い状況にある人を独りにしない！」ということで、困難な状況にある若者を抱える家族を地域で支え、独りにしないことが重要。地域で引きこもっている人の能力を引き出し、外に出ていく機会を教えることができるとうい。
- ◇ 働くよろこび・仕事に対するやりがいを見つける機会をつくるため、具体的な形で中間就労の機会をつくり、働くことをリアルに感じる情報提供や体験機会を教育段階で多様に用意すべき。
- ◇ 「若者の自立」に家庭・地域・行政・民間が横断的に取り組む必要があり、その財源としては国や市で役割分担をした方がよい。



**(3) 成果の発表、シール投票、コーディネーターまとめ**

- 各グループの代表者から成果発表を行った後、シール投票を行いました。

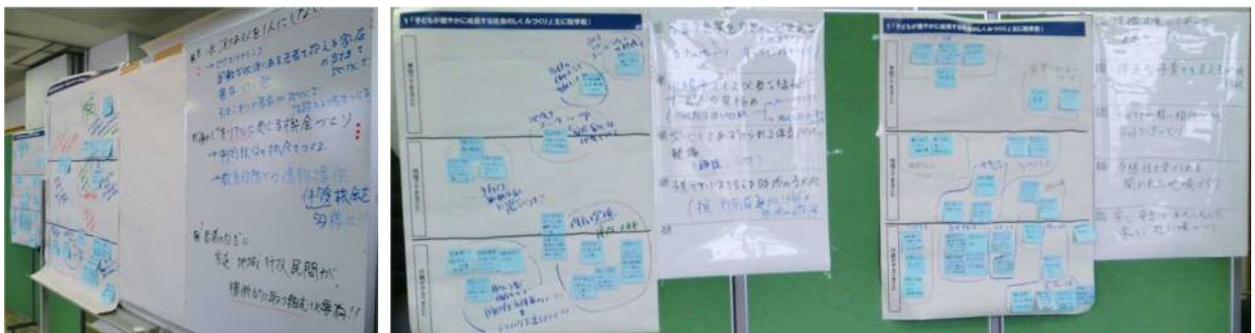


グループの代表者による発表



グループ発表後のシール投票

- 最後に、コーディネーターの磯崎教授から、今回のテーマは目標そのものが多様で、単一的な価値観では決められず、柔軟に考える必要のあるテーマであったとのご感想とともに、話し合いの内容をキーワードで総括していただきました。
  - **テーマ1:「伴走」**
    - ・子育ての環境や家庭は多様なため、画一的に支えるのではなく、本人の立場に立ち、それぞれの家庭の状況にあわせて相談に応じて「伴走」することになる。これは青年期の「独りにしない」にもつながる普遍的キーワードである。
  - **テーマ2:「場づくり」**
    - ・遊び場をつくる、大人がかかわる機会をつくる、ということにもつながる。地域に開かれた学校運営も、1つの「場づくり」である。
  - **テーマ3:「実感・リアル」**
    - ・「働くリアリティを感じる」という意見があり、「働くよろこび」という言葉も出ていた。実感してもらわないと人は成長せず、本当の自立・教育は成り立たない。



グループのまとめ

→ 本部会の成果は、第2回全体会に報告し、市民検討会議全体で共有し、話し合いに反映させます。